

3. 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言期間中の リトルペガサス事業運営と利用者支援について

リトルペガサス

新型コロナウイルス感染症の流行により、4月7日に千葉県にも緊急事態宣言が発令された。外出自粛をせざるを得ない状況となり、市内の小学校は休校、幼稚園・保育園は休園、開園縮小された。その中、リトルペガサスは開室を続けた。緊急事態宣言発令期間中、利用者と職員がどのような日々を過ごし、支援を行っていたのか、当時を振り返り、報告する。

新型コロナウイルス感染症、予防、自粛、支援

1. はじめに

令和2年始め、都内を中心に新型コロナウイルス感染症の患者が増えた。令和2年2月13日、厚生労働省から社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症への対応の文書が出たことを踏まえて、青葉会全体も新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げる事となり、リトルペガサスでも新型コロナウイルス感染症対策を講じる事となる。令和2年度が始まってすぐ、4月7日、千葉県にも緊急事態宣言が発令された。緊急事態宣言中も、リトルペガサスは開室を続けた。

2. 取り組み

感染予防の観点から出された日本政府の指針及び日本政府の指針を受けて法人が出した方針を踏まえ、緊急事態宣言中にリトルペガサスが取り組んだことを以下の表にまとめた。

表1 開室する中で取り組んだこと

体調面	<ul style="list-style-type: none"> ・登室前、自宅にて検温（37.5℃以上は利用不可） ・職員の検温、利用児、保護者は登室後にすぐ検温し、検温表に記入 ・親子ともマスクの着用 ・職員も活動中マスクの着用
環境面活動面	<ul style="list-style-type: none"> ・分離クラスは密を避け、昼食後の休息をなくして13:30の降室 ・2階の活動室は、パーティションを開けて活動 ・活動中、窓を開け常に換気 ・手洗い、うがいの徹底 ・手を洗った後に使用するペーパータオルを用意 ・アルコール消毒液の設置 ・水分補給用の水筒を各自持参

環境面活動面	<p>(補充用は用意)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机上活動や昼食は、正面に座らないように互い違いに椅子を設置 ・活動の内容は密にならないものを職員間で検討 ・ピューラックスの布巾を用意し、子どもが口に入れてしまった玩具等を拭く ・活動後リトルペガサス全体や触れる場所の消毒、玩具の消毒 ・利用者が多い時には、活動の中で人数を半分に分ける、またあおばの庭やWITH USの体育館を借りる
--------	--

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画の面談については原則行わない ・保護者との話は立ち話程度にとどめ、風通しの良い場所で行う ・リトルサロンの面談、見学は極力延期 ・職員のテレワークの実施 ・朝礼のリモートの実施
-----	---

現在も対策は行っているが、変更した点を以下の表にまとめた。

表2 現在取り組んでいる変更点

体調面	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、利用者と職員の検温の実施 ・検温の結果、<u>37.0℃以上</u>の場合利用不可 ・表情が見えるように職員は<u>マウスシールドの着用、またはマスクの着用</u> ・夏場、野外の活動は熱中症対策の為マスクを外す
環境面活動面	<ul style="list-style-type: none"> ・分離クラスは、<u>休息なし14:00降室</u>とし、現在も継続 ・公園の遊具が使用不可の間は、リトルペガサスの園庭を順番で使用 ・公園の遊具が使えるようになってからは、人数が多くなるよう時間差で使用 ・暖房中の定期的な換気

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンは個別対応する ・面談の再開 ・テレワークは現在はないが、活動後、密にならないよう各部屋での仕事 ・残業をせず、体力維持
-----	---

3. 新型コロナウイルス感染症を理由とした欠席状況について

全国、そして近隣県での新型コロナウイルス感染症患者の増加に伴い、感染への不安から登室を自粛し、欠席をする利用者が増えた。新型コロナウイルス感染症に係る欠席の主な理由を以下の表にまとめた。

表3 欠席理由

<ul style="list-style-type: none"> ・国が自粛要請をしているから ・集団の場での感染不安 ・家族や高齢者への感染予防 ・公共交通機関を利用することの感染不安 ・活動には参加したいが、風邪での咳症状で周囲への配慮からの自粛 ・保育園、幼稚園、小学校の休校に伴い、兄弟姉妹の預け先がない ・コロナ患者受け入れの病院やホテルが近くて不安

3-1 電話支援について

4月9日付、柏市障害福祉課より新型コロナウイルス感染症防止のための報酬の取り扱いが、臨時的取り扱いとされる事となり、保護者承諾の下、電話支援をする事によって基本報酬を請求できる事になった。リトルベガサスでは、登室を自粛している家族の支援を電話支援に切り替え、利用予定日に電話をかけ、体調の変化や家庭での様子を聞き、困り事はないか等の聞き取りを行った。その際、記録用紙として使用したものが図1である。

野田市、流山市は、支援記録用紙等はなく、個人記録に記載となっていたが、リトルベガサスでは、通室児全員に柏市の支援記録用紙を使う事とした。

新型コロナウイルス感染症に係る臨時的取扱いに基づく支援記録

※本記録については対象者及び支援日毎に1枚ずつ記録を保存すること

事業所名		記録者名	印
サービスの種類		運営状況	通常・休止中・縮小運営中 (どれかに○)
支援実施日	令和2年 月 日	利用者名	
対応時間	時 分 ~ 時 分	対応手段	利用者宅・電話・その他
支援の記録内容 (※利用者又は保護者から支援の要請があった場合のみ)			
具体的な支援内容			
・利用者(保護者)から要請された具体的支援の内容			
・事業所が行った支援内容			
体調の確認(検温、呼吸器系、体調)			
体温: °C			
呼吸器系: 異常なし・異常あり			
体調に関すること:			
上記支援について要請に基づいた支援の提供を受けたことを確認しました。			
令和2年 月 日		利用者(保護者)氏名:	印

※1: 単なる欠席連絡(特段支援が不要との意向の場合)での対応は「欠席時対応加算」になります。
 ※2: 従来通り他事業所・他サービスの重複があった場合は返戻の可能性あります。
 ※3: 実務記録確認票の「備考欄」に「コロナウイルス対応」の旨を記載すること。
 ※4: 本記録については1か月分まとめて記録の写しを、提供翌月の15日までに柏市障害福祉課福祉サービス担当まで提出してください。
 ※5: 当該支援は各種サービスの基本報酬となるものです。通常利用と同じ利用者負担が発生しますので、利用者・保護者に対する説明・同意をとること。

図1 電話支援記録用紙

電話支援をしている中での保護者から聞かれた主な困り事、それに対するの支援内容を以下の表にまとめた。

表4 電話支援の主な内容

聞き取りの内容	支援内容
・リトルベガサスに通いたいのに、 (様々な理由で)通えない ・少しずつでも登室したい	→ 母の気持ちを吐き出すように聞き取る → 母の気持ちに寄り添う言葉掛け → 活動参加時間を思い切ったAMのみ
・公園に行けず運動不足になることが心配	→ 夕方など人が少ない時間帯に行くこと → 近所をぐるっと散歩して気分転換
・家での過ごし方がマンネリ化	→ 家でリトルベガサスごっこをする → 今までやってきた手遊びや運動遊びのレクチャー
・勝手に外へ行くとする	→ xマークで視覚的に分かりやすく → すぐに出られない環境作り → リトルベガサスでやっているように「OOやってもいいですか?」と伝えてくれるように
・家庭訪問の希望	→ 日程の調整をし、家庭訪問実施 → 電話で聞いていた母の困り事の場面を実際に見ての助言
・家で興奮した時の奇声が気になる	→ その場に合った児の気持ちを代弁
・甘えが強い、抱っこしてほしい	→ 足は床についてままでの抱っこ方法 → 「OOしたらOOしようね」のやりとりの提案 → 一緒にやる、「やってください」「いいよ」のやりとり
・園が休みになり、生活リズムが崩れがち	→ 起床、就寝時間は変えないようにする

外出自粛により、外で発散できないことでの保護者や利用児本人のストレスがあることが窺えた。また、登室自粛をしている利用児と保護者は、他の併用施設も自粛または休園となっているため、悩み事を話す場が少なくなっていた。利用日に電話を掛けると、「先生からの電話を待っていました」「話したら楽になった」等の声も聞かれた。

3-2 出欠席の割合

リトルペガサス全体での、出席と新型コロナウイルス感染症が理由の欠席（以下図2ではコロナ欠と示す）の割合を、緊急事態宣言が発令された4月と解除された後の6月を、以下の図で比較してみた。

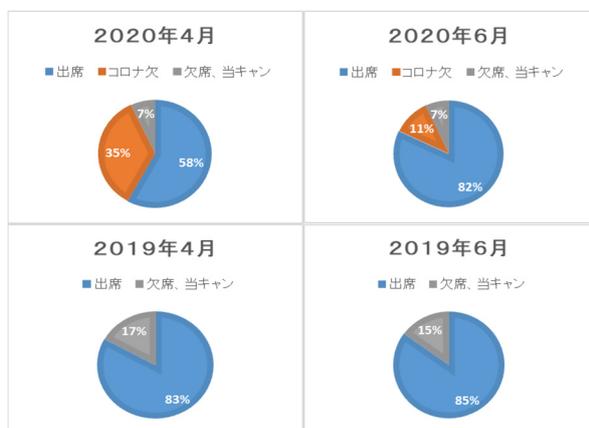


図2 2020年と2019年の出欠席の比較

緊急事態宣言中の4月の出席は全体の約半数、緊急事態宣言が解除され、6月より分散登園が始まったことで、6月は出席の割合が増えている事が見てとれる。

昨年と同じ時期のものと比較してみると、利用者数に差があるものの、全体から見た欠席数の割合は、今年度の方が少ないことが分かる。もし今年度基本報酬の臨時的取り扱いがなく、例年通りの欠席扱いだったとしたら、リトルペガサスの収入は大幅に減っていたと思われる。また、電話支援をする事に同意をもらい、保護者に了承印をもらわなければ請求をすることはできない。昨年度のJS研究会で、出欠席の把握と取り組みからの収入について発表したことを生かし、新型コロナウイルス感染症が理由の欠席に対しては、収入に変えるべく、必死に電話支援を続けた。その結果、図3からも読み取れるように、収入減を抑える事が出来た。

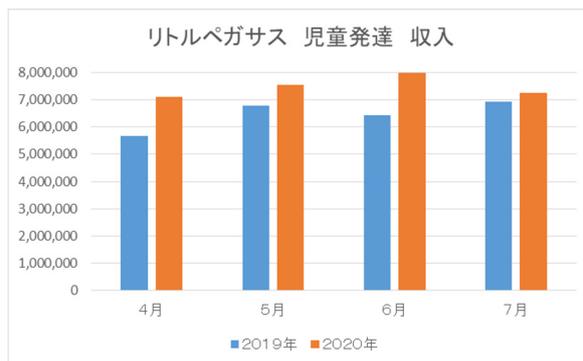


図3 2020年と2019年の収入の比較

4. 事例Aくん

Aは他施設との併用はなし、リトルペガサスのみの通室児、今年度は週4日通室予定であった。Aは持病があり、母は普段から児の体調には人一倍気を遣っていた。新型コロナウイルス感染症の患者が増えてきた昨年度末から登室を自粛、4月以降も自粛していた。ほぼ毎日の電話支援が続き、支援記録は約120枚にも及んでいる。

Aの電話支援の内容を以下にまとめてみた。

表5 Aの電話支援内容

相談内容	支援内容
トイレトレーニング	☆ 排尿排便の間隔を掴む
	☆ パンツで過ごしてみる
	☆ 両親(主に男の人:父)がトイレに行くのを見学する
	☆ 時間を決めてトイレに連れて行き、出なくても座ってみる
	☆ 失敗しても叱らない
自粛生活の過ごし方	☆ 庭でもいいから外に出る時間を作る
	☆ 午前中はリトルペガサスの活動の流れを家でやってみる
	☆ 起床、就寝時間は崩さずに
リトルペガサスの活動状況が知りたい	☆ 感染症対策の説明
	☆ 活動時間を短くしているケースもある
	☆ 同じクラスの友だちの様子

4-1 自粛中に出来たこと、母の気付き

- ☆ 逃げて来たトイレトレーニングにゆっくり取り組めて、オムツを外す事ができた
- ☆ 言語模倣が増えた
- ☆ 要求を言語で伝える場面が出てきた
- ☆ NO が言えるようになった(例えば、トイレに座る事への拒否等)
- ☆ ダメな事をわざと行う等、自我が芽生えてきた
- ☆ 家でリトルペガサス職員の名前を呼ぶようになった、時には電話口で児が職員と話す(声を聞く)こともあった

☆ 父を認識するようになった（毎日顔を合わせるようになったから）

☆ 助言をもらい、家でこれをしよう！と思える事があった

☆ 母は話すことで気分転換になった

緊急事態宣言が解除されても、登室を自粛していた事から、ZOOMを使ってのリモート支援も行った。その際は、単身赴任中の父も他県から参加。リトルペガサス職員全員と顔を合わせる事ができた。その間も、母の不安に寄り添いながら、まずは分離はやらずに母子通室クラスに短時間来てみる事を提案する。7月になり、午前のみ活動に参加した。その際、マスクをつけていない子がいたり、咳をしている子の姿を見て、母の不安が大きくなり、再度電話支援となる。

4-2 登室してみた後の気持ち

★ 友だちが新型コロナウイルス感染症ではないのはわかっているが、“児がコロナで入院したら”と頭によぎる

★ 児がいろいろな物を触るのを防ぎきれない

★ 天気が悪いと母の気持ちが不安定になる

★ 思っていたより登室している子が多い

4-3 自粛から登室へ

Aの母は、感染への不安が日に日に大きくなり、電話支援では母の気持ちや思いが前面に出ていた。母の不安な気持ちを受け取りじっくり聞きながらも、児にとって、今どうしていく事が大切なのか、今できる事は何かを児の視点からも見てもらえるよう助言もした。

その方法の一つとして、現在のクラスをもう一度見てもらう機会を作ったり、ゆっくりやっっていく事を提案し、9月からは母子通室クラス週1回、10月からは母子通室クラス週2回午前のみを通室が始まった。

長期に及ぶ電話支援、リモート支援の中で、リトルペガサスへの登室を再開しようと母の気持ちに変化していき、現在につながっているが、支援する側の職員の負担も大きいものだった。

5. まとめ

今回の研究内容は、新型コロナウイルス感染症に係る取り組みでもあったが、昨年度の発表の出欠席と収入につながるものになった。基本報酬の臨時的取り扱いにより、収入減を抑える事ができたが、緊急事態宣言中、休んでいた登室を自粛していた利用者、保護者に電話支援という形でリトルペガサスからの支援を継続することができたことは大きい。4月から入室が決まっていた新規契約児の支援は、信頼関係が築けていない中での電話支援となり難しいものだった。Aの事例でも、リトルペガサスに入室してからこれまでの保護者と職員の信頼関係があったことで、電話支援の中でも助言ができた部分もあった。

6. おわりに

新型コロナウイルス感染症対策の中、登室してくる親子の支援、電話支援、自分たち家族の事、自分自身の体調管理、すべてに必死な数ヶ月だった。事例Aについても、両親の思い、児が思っているであろう思い、職員の思いが重なり、現在元気に通室し、支援の継続ができています。

毎日、新型コロナウイルス感染症患者の増加が報道されている。冬に流行する感染症も出てくると予想される。明日からも引き続き、リトルペガサスでもしっかり予防していき、リトルペガサスを必要とする親子を支援していきたい。

<ターニングポイントは？>

- ① 気候が落ち着いた（母の薬服用）
- ② 新型コロナウイルス感染症と生活していくという世の中の流れ
- ③ 病院の主治医の後押し
- ④ 単身赴任先から帰省した父の助言と存在
- ⑤ リトルペガサスへの信頼
- ⑥ 児の就学を見据えての面談